随時受け付けしています

第7回 フォトコンテスト

造園作品の写真 ご応募ください

優秀作品は　優秀賞 1名　賞金とトロフィーの授与
入賞　2名　賞金の授与
翌年カレンダーへ使用させていただきます

応募方法
① メールで提出　E-mail：takano@e-392.com
② 写真で提出　裏面に事業所名・氏名を記入し郵送ください
〒371-0014 前橋市朝日町 3-12-20 （一社）群馬県造園緑化協会 宛

★造園作品を撮影した写真（作庭作品や手入れ作品など）
★過去に撮影した写真もOKです（製作時期は問いません）
★1人につき多数の応募も受け付けいたします

編集後記

真夏に開催された、「ものづくりフェスタ 2024 in 群馬」。緑化協会は大盛況のうちに終えることができました。

開場して、あっという間に緑化協会のブースにはたくさんの親子連れが集まり、準備した材料も間に合わないほどでした。外会場では水鉄砲の的打ちに夢中になるあまり、キャッキャと遊ぶ子どもたちの服はあっという間にびっしょり……。でも、親御さんは誰ひとり怒ることなく、無邪気に遊ぶ我が子の様子を優しいまなざしで見守っていました。涼しい部屋でゲームもいいけれど、現代のおもちゃとは違う素朴なおもちゃで知らない子ども同士、楽しそうに遊ぶ姿は本当に良いものでした。

関係者の皆さん、猛暑の中、本当にお疲れさまでした!!

（高野）

会報 造園群馬
No.98 令和6年11月20日
発行　一般社団法人群馬県造園緑化協会
前橋市朝日町3-12-20　TEL.027-243-5693
印刷　小島印刷株式会社
伊勢崎市西小保方町501-4　TEL.0270-62-3298

赤城自然園

渋川市赤城町南赤城山892
TEL.0279-56-5211

赤城山西麓の標高600～700mに位置する。春には花が咲き誇り、夏には野鳥や昆虫などの生命力があふれる。秋には草木が実をつけ、広葉樹がみごとに色づく。豊かな四季の装いを肌で感じることができるのが魅力だ。

気軽にゆっくり散策しながら植物を愛で、野鳥や昆虫を観察できる森。

元は1980年代に、西武セゾングループが主導して造った森。よく整備されていて、バークを敷き詰めた遊歩道、間伐材で作ったベンチやイス、トイレ(6か所)などが要所に設けられている。

入口の「展示棟」をはじめ、「みどりの広場」「森の遊び場」「散策の小径」「昆虫館」「お花畑」ほか、たくさんの見どころが設定されている。

赤城自然園の森林は癒し効果が科学的に実証されていて、リラクゼーション効果や免疫機能改善などを期待できるという。生理心理実験によって癒し効果が実証され、森林セラピー・ソサエティにより、森林セラピー基地に認定されている。

現在の開園エリア(約60ヘクタール)は、「セゾンガーデン」「四季の森」「自然生態園」の3つに分かれている。すべてのエリアをまわると約2時間、歩数にしておよそ1万歩になるという。

大人1,000円の入園料が必要だが、それ以上の価値がある。

ナナフシ橋。左側の欄干には「ひだりあるこう」と書かれている。

アサギマダラは海を越えて1千km以上も旅をする渡り蝶。赤城自然園では毎年9月から10月にかけて見ることができる。数千頭が飛来する。

彼岸花の群落。

こんなキノコも。

休憩所を兼ねた見晴台。

第40回 通常総会が開催される

●とき／令和6年5月31日（金）午後6時　●ところ／桐生グランドホテル

2年連続桐生での開催。全議案が承認・可決。

今年でちょうど40回目となる通常総会が5月31日、桐生グランドホテルにおいて開催されました。

須永会長は挨拶のなかで、総会が2年続けて桐生で開催されること、その総会が40回目であり、無事行われること、日ごろ会員の皆さんに協力いただいていること、40年前から諸先輩が築きあげていただいた総会が今日まで続いていることなどに触れ、感謝の言葉が述べられました。

また、夏に「ものづくりフェスタ」が高崎で行われるに際し、水鉄砲を作る予定であることや、皆さんにはぜひ協力いただきたいとも述べられました。

続いての「特別会員および名誉会員表彰」では太田支部の浅倉清一郎さんが表彰されました。

表彰の後、司会の福田副会長から「出席者数が成立要件に達しているので、総会が成立する」という趣旨の総会成立確認報告が行われ、開会されました。

ちなみに、会員数74名のうち出席者30名、委任状29名でした（過半数は37名）。

議長の選出では出席者から「事務局に一任」という声があがり、桐生支部の下山清隆さんが指名されました。

下山さんは「慣れていませんが、精いっぱいやっていこうと思いますのでよろしくお願いします」と挨拶。続いて議長団選出について「議長一任」の声があがり、副議長に館林支部の牛久保重彦さんを指名しました。

同様に、議事録作成にみどり支部橋場則人さん、議事録署名人に前橋支部の深津和弘さんと太田支部の渡邊不二夫さんが選出されました。

議案の審議に移ると、まず第5号議案「その他の件」が審議されましたが、議長の「最初に第5号議案その他の件、どなたかお持ちの方」という声に意見がなかったことから、第5号議案は削除されました。

次に、第1号議案と2号議案が一括上程、一括採決という形で審議されました。

議案		結果
第1号議案	令和5年度事業報告・会務報告	承認
第2号議案	令和5年度収支決算報告	承認
第3号議案	令和6年度事業計画（案）	承認
第4号議案	令和6年度収支報告（案）	承認

出席者が次々に受け付けを。

福田副会長の巧みな弁舌にますます磨きがかかってきた？

副議長の牛久保さん（左）、議長の下山さん。

監査報告をする木村重太郎さん。

太田支部の浅倉清一郎さんが欠席のため、同じ支部の渡邊さんが受け取った。

真剣な面持ちで決算書などの書類に目を通す。

ほっとした表情で懇親会の始まりを待つ面々。

乾林の発声は武藤前会長。

第1号議案と第2号議案の主な項目が読みあげられ、説明終了後に監事の木村重太郎さんから「現金等すべて相違ないことを確認した」との監査報告がなされました。両議案とも質問はなく、拍手によって承認されました。

続く第3号議案と第4号議案も大きな項目が読み上げられて審議されましたが、両議案とも質問はなく、拍手によって承認されました。

議長から「以上で滞りなく議事を終了したので解任させていただきます。ありがとうございました」と挨拶があり、拍手とともに議長団は解任されました。

司会の「以上で1号から4号まで採決が行われました。ありがとうございました。以上をもちまして第40回通常総会を終了いたしました」との言葉で今年も滞りなく無事終了となりました。

その後は5分ほど休憩時間が設けられ、お待ちかねの懇親会へと移りました。須永会長の「あまりしゃべっているとビールが温まってしまう」というジョークではじまった挨拶では「これから陽気が暑くなります。皆さんの仕事も大変ですが、体に十分留意され、ケガなどにも気をつけていただきたい」と述べられました。

続いて武藤前会長の「まずは総会がスムーズに進行され、おめでとうございます。役員の皆様お疲れさまでした。造園緑化協会ますますの発展と、ご列席の皆様の活躍を祈念して乾杯」という発声で乾杯が行われました。

ものづくりの魅力を発信

ものづくりフェスティバル2024参加

●とき／令和6年7月31日(水)～8月1日(木)　●ところ／Gメッセ群馬

竹を使った水鉄砲づくり、たくさんの親子連れで賑わう

外では真夏の太陽が照りつける7月31日と8月1日の両日、「群馬地域技能振興コーナー」（群馬県職業能力開発協会）による「ものづくりフェスティバル2024」が開催され、当協会は「ものづくり体験・作業体験」をテーマに、「竹を使った水鉄砲作り」を提案して参加した。

このイベントは4年に一度行われ、コロナが蔓延していた2020年は見送りとなり、久しぶりの開催となった。これまでは秋に開催されていたが、今回は異例の真夏に開催となった。開会は午前10時30分からだったが、3階の会場には早くから親子連れが訪れて賑わった。

午前10時30分からの開会式では、山本一太群馬県知事をはじめ、関係者が挨拶や祝辞を述べた。報道陣や大勢の参加者が詰めかけ、前が見えないほどだった。

☆　　☆　　☆

来場した子どもたちはほとんどが小学生で、男の子と女の子とほぼ半々といった感じだった。子どもたちからは「けっこうむずかしい」などという声もあり、親といっしょになって苦心していた子もいた。5人ほどの子どもにたずねてみたが、5人とも水鉄砲づくりは初めてとの返事だった。

竹は自然素材なので、芯に巻く布と竹筒の間がうまくフィットしないと、きつくなったり隙間ができたりする。

水鉄砲が完成すると外の〝試射場〟へ。スタッフの指導を受けながらの〝試し撃ち〟に臨んだ。どの子も上手に的を撃ち抜いていた。水鉄砲の仕上がりが良かったことのあらわれだろう。

☆　　☆　　☆

水鉄砲作りを思いついたのは須永会長だった。ただし、最初の案は竹とんぼだった。しかし、竹とんぼは細工が難しく、事前準備なども考慮し断念。再考した結果、真夏なので水遊びがいいということになり「これはもう水鉄砲だ！」となった。その案を理事会にかけてオーケーも出た。

竹は福田造園さんのお客様である桐生市広沢町のお宅から提供していただいた。その他資材の調達や下準備には、会長、福田副会長、桐生支部長の矢島会員、太田支部長の渡邊会員が主に携わった。

竹の調達は二日前ごろから始めた。竹を伐ってから枝を払い、汚れを落とすなどの作業が必要で、この手間にけっこう時間をとられた。だからといって早いうちから竹を伐っておくわけにはいかない。時期が夏場ということで、早く伐ってしまうと黄色く変色してしまうからだ。

普段は手がけることのない水鉄砲づくり。室内の作製会場では、竹筒の太さとそれにはめて水を出す竹の太さの調整が難しく、最初は少し手こずったが次第にマスターし、子どもたちも順調に手ほどきできた。

予想以上に希望者が多かったことから、110セット分のキットを用意したものの、混乱を避けるために初日は55組で締め切るという盛況ぶりだった。翌日も引き続き大好評で、午前中で材料を使い果たし、水鉄砲作りは終了となった。カンカン照りの野外会場の試射では、ワクワクした気持ちで遊べるよう金魚すくいの網を代用して的にした。これが子どもたちの心を掴み、大好評だった。須永会長も「想像以上の大盛況でほっとした」と喜びを隠さなかった。

現代ではさまざまな玩具が市販されていて、竹などの自然素材から自らの手で遊び道具を作ることは皆無だ。今回の水鉄砲作りは、子どもたちにも会員にも、いろいろな面で意義があったようだ。

山本知事の挨拶は元気で迫力がある。

参加者が詰めかけ、知事の姿は見えない。

やはり小さな子には手助けが必要。ていねいに教えてあげる。

こういう楽しみ方もある。

試射はみんな楽しい。命中率抜群。

前橋支部 **研修旅行報告**

風情ある日本庭園や北方文化を堪能

椿寿荘　清水園　月岡温泉　北方文化博物館

令和6年6月23～24日の日程で新潟方面を訪れました。コロナ禍により長らく行えていなかった前橋支部の研修旅行となります。

初日は旧永明公民館に集合し、関越自動車道を利用して一つ目の研修場所の椿寿荘を見学しました。椿寿荘では、枯山水庭園と日本中の銘木を集めて造られた建物を見学しました。当日はあいにくの雨天でしたが、雨で濡れたお庭はとても趣があり、素晴らしい景色を見ることができました。

二つ目の研修場所は、清水園でした。清水園は回遊式庭園となっており苔がとても素晴らしい苔庭となっておりました。参加者は、苔を見ながら回遊式庭園を隅々まで見学されていました。前橋支部には苔の専門家の方もいらっしゃるため、実物を見ながら質問できることは、とても貴重な体験となりました。

宿泊場所は月岡温泉白玉の湯・華鳳でした。群馬中央バスの大山さんのオススメだけあり、全てが素晴らしいホテルでした。宴会も盛り上がりお酒も進みとても楽しい時間を過ごすことができました。ただひとつ心残りがあるとすれば、雨天のため華鳳の素敵な中庭を近くで見学できなかったことです。またの機会があれば、ぜひとも見学をしたいです。

二日目は北方文化博物館が研修場所となりました。建物、お庭ともに素晴らしい博物館でした。中庭には古木の大藤があり見事な藤棚がありました。季節的に藤のお花を見る事はできませんでしたが十分に見応えがありました。お花の時期やライトアップの時期の綺麗さが想像するだけで目に浮かぶようでした。

見学を終えた後は海鮮系の昼食を頂き、全て工程を終了し休憩をはさみながら帰路につきました。

最後になりますが、支部会員の皆さまのご協力があり研修旅行が開催できました。また、須永会長におかれましては、支部の研修旅行に参加して頂き誠にありがとうございました。

（前橋支部／深津和弘）

北方文化博物館

清水園

エッセー 木々是好日 37

初夏の代表的花木 ヤマボウシ

新木としろう（グラフィックデザイナー）

ヤマボウシの漢字表記は「山法師」だ。読みが「ヤマホウシ」なら直感的に結びつきそうだが、「ヤマボウシ」では「山帽子」のように思う人もいるかもしれない。

学問上ではミズキ科ミズキ属のヤマボウシ亜属で、落葉小高木（落葉中高木とも）に分類される。日本の山野に自生するが、国外では朝鮮半島や中国などでも見られる。初夏になると白い花を咲かせる。

花は一見白い四弁の花びらのように見えるが、それは総苞片と呼ばれるもので花びらではなく、その中心にある小さな緑色の粒々が本当の花だ。

実は秋になると赤く熟し、甘酸っぱくなる。ジャムや果実酒などとして人間も食べることができるが、野鳥にとっても大好物となる。

幹は樹齢を重ねるにつれ、きれいなまだら模様が現れてくる。この模様を好む人も多い。

葉は全体的には楕円形だが、ハナミズキとは異なって先がとがっている。

分類上ではハナミズキと親戚関係にあたるがまったく別の木で、次のような違いがある。開花時期はヤマボウシのほうが少し遅い。葉の形は双方とも楕円形だが、ヤマボウシは先がとがっている。原産はヤマボウシが日本、ハナミズキは北アメリカだ。

清楚な感じの花を咲かせることや、小さな赤い実をならせることから、庭木や街路樹などとしても人気があり、公園などでも見かける。

病害虫に強いので、初心者でも気軽に庭木として育てることができる。また、もともと樹形が美しいため、剪定しなくても自然のまま美しさを保てるが、これはなかなかのメリットだ。

材は非常に堅く、耐久性に優れている。また、木目が緻密なうえ美しく、高級感もあるため、家具や木工品の材料として重宝される。かつては水車の歯車や農具用などとして利用されていた。

反面、木の生長が遅く、大きな木に育てあげるには長い時間を要した。そのため、大きな材をとるのは難しかった。したがって流通量は少なく、他の木材と較べて高価になりがちだった。

自治体のシンボルとして人気があり、市の木として宮城県栗原市、新潟県胎内市、兵庫県宝塚市、福岡県直方市、長崎県雲仙市が指定し、町の木としては山形県金山町と広島県神石高原町がそれぞれ指定している。

花言葉は「友情」だが、さぞや固い友情であろう。